

がん CT 画像読影のひきだし

稲葉 吉隆, 女屋 博昭, 清水 淳市, 前田 章光 編

＜書評者＞ 鈴木 賢一

(星薬科大教授・臨床教育研究学域実務教育研究部門)

本書を手にした瞬間、私は 30 年前のあの頃を思い出した。

就職して間もない私は、憧れていた病棟業務に配属され、呼吸器内科を担当することになった。患者の情報共有のために毎週カンファレンスに参加し、カルテを閲覧する機会が格段に増えたが、CT 画像や検査所見、専門用語のオンパレードで頭の中は混乱し、専門書を読みあされば何とかかなと思ったが考えは甘かった。当時、呼吸器内科の Y 医師はカンファレンス終了後、途方に暮れていた私に画像の見方や検査値の解釈などについて、カルテや実際の画像を示し夜遅くまで丁寧にレクチャーしてくれたことを思い出した。

本書の良いところは、単なる読影解説書ではないところにある。冒頭では読影に必要な用語の解説から始まり、臓器ごとの項では画像を理解するために最低限必要となる、解剖学的解説が整理されている。これらの配慮のおかげで薬剤師や看護師の初学者にとっても、

身構えずに安心して読み始めることができる。さらに、読者が画面上の画像からより立体的にイメージしやすくなるよう、正常画像の動画を閲覧できるよう工夫されていることも特徴的である。

また本書の後半には現場で日常的に経験し得る臨床課題や、症例に落とし込まれたストーリーに沿って画像読影の解説が織り込まれている。読影メインではなくあくまでも臨床現場を想定した解説書としての完成度も高く、私はこの項が特に気に入っている。

昨今、各医療機関では病棟には薬剤師が常駐し、医師や看護師からなるチーム医療の中で、適正な薬物治療を提供するために活躍している。ひと昔前までは患者への服薬支援がその業務の中心であったが、昨今は薬剤選択や処方提案の観点から、医師に対するより高度かつ論理的な医薬品情報提供を行う機会が求められている。薬剤師が画像所見から得る情報を医師と共有することで、適切な薬物治

療をより効率的に提供することが可能となる。

自身の経験上、カンファレンスであらかじめ骨転移の箇所や肺尖部の浸潤所見を把握できたことで、患者面談時の疼痛やしびれに関する問診を早期に実施でき、適切な処方提案により良好な疼痛管理につながった経験がある。そのときの患者さんの穏やかな表情は今でもよく覚えている。

もし 30 年前のあのときに本書が手元にあったら、と考えると少し悔しい気持ちになるほど素晴らしい内容である。本書は医師のみならず、チーム医療に参画する薬剤師、看護師のお供に自信を持ってお薦めできる良書である。

● B5 頁 240 2022 年 3 月

定価：4,950 円

(本体 4,500 円＋税 10%)

[ISBN978-4-260-04928-3]

医学書院刊